

教育センターだより

9月

「夜長月（よながつき）」が略されて、「長月」となった。



401号 令和5年9月1日発行
砺波市教育センター HPはこちら
〒939-1398 砺波市栄町7番3号
TEL 33-1559 FAX 33-1157
E-mail tonami-ec@tym.ed.jp



子供たちが「動く」授業へ

酷暑の中、教育センターの研修会に多くの先生方に参加いただき、ありがとうございました。先生方が、**アウトプット**しながら主体的に研修に参加し、今後の**課題**を明確にしておられる姿から、実りの多い2学期になることを確信しました。

2学期の授業・活動づくりのポイントは、子供たちが課題解決に向かって**自ら動いて学ぶ**場面を想定し、**課題や環境を工夫**することです。

教育センターも学校・園と同じ方向を向いて、研修等を工夫したいと考えております。「こんな研修があったら…」「こんな資料があったら…」ということがあれば、気軽にお声かけください。



研修のあしあと

期日・研修会名・演題・講師	参加者より
7月26日(水) 特別支援教育研修会 「一人一人の教育的ニーズに応じた学びの場」 特別支援担当指導主事 吉田 友子 先生 早期支援コーディネーター 菓子井 佐英子 先生	 <ul style="list-style-type: none">・「明日のために」を基にして、全員が安心して過ごせる学級づくりをしたい。・研修会の内容を校内で共有し、普段から気になる児童生徒について話ができるようにしたい。
7月31日(月) 資質能力向上研修会 「授業、学級経営、生徒指導に生きて働く特別活動ー往還的な指導を通してー」 國學院大学 教授 杉田 洋 先生	 <ul style="list-style-type: none">・子供たち同士が話し合い、試行錯誤しながら創り上げていけるような活動を仕組む。・小学校1年生ということで、失敗させないようにルールを敷いていた面があった。もっと子供に任せる活動を考えたい。
8月 2日(水) ICT 研修会 「『個別最適な学びと協働的な学び』の一体的な充実のためのICT 機器の活用と校務情報化」 新潟市立大野小学校 校長 片山 敏郎 先生	 <ul style="list-style-type: none">・「個別最適な学びと協働的な学び」と ICT との関係性や具体的な活用策を知ることができた。・実践例を多く紹介していただき、目指す方向をイメージすることができた。

<p>8月 3日 (木) 「幼児教育・小学校教育接続 推進研修会」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・付箋を用いた演習を通して、接続への願いを出し合ったことで、具体的な話をする事ができた。 ・今後、実際に互いの保育・教育を見たり関わったりし、対話することで、接続がより推進される。
<p>8月 4日 (金) 特別支援教育研修会 「インクルーシブ教育のバリア フリーーよき理解者・支援者 となるためにー」</p> <p>北陸大学 教授 河野 俊寛 先生</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要としている子供を、就労まで見据えて指導していくことの重要性を痛感した。 ・SLDのある人の支援目標は「学習が遅れないようにすること」という言葉が心に残った。
<p>8月 7日 (月) 生徒指導講演会 「ゲートキーパー講座 ～味方になりきる コミュニケーション講座～」</p> <p>日本ゲートキーパー協会 会長 大小原 利信 先生</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・共感、感謝、約束を誰に対しても意識し、コミュニケーションを図っていきたい。 ・相手に「安心感」を与える聴き方に努める。最後まで否定しないで聴く、助言を焦らない、変更を認めるなどが大切である。
<p>8月 8日 (火) 授業力向上研修会 「子供たちの学びの基盤を 築く授業づくり」</p> <p>金沢大学教職大学院 准教授 加藤 隆弘 先生</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・できる児童生徒だけでなく、授業を進めるのではなく、全員が「わかった」「できた」が実感できるようにする。 ・自分の考えを書けるように、例を提示したり繰り返し書く機会を設けたりしたい。
<p>8月18日 (金) 実技指導法研修会 「打楽器演奏の効果的な 指導法」</p> <p>打楽器奏者・指導者 平永 里恵 先生</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・教えていただいた楽器の名前、特徴、叩き方等、子供たちの実態に合わせて伝えていきたい。 ・学校にある楽器の状態を確認したい。打楽器は、叩くのではなく弾ませて鳴らすことを伝えたい。
<p>8月25日 (金) 実技指導（体育）研修会 「器械運動における指導法」</p> <p>富山大学 准教授 佐伯 聡史 先生</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「できた、できる」の積み重ねを感じさせてあげられるような道具の工夫をしたい。 ・子供たちのつまずきを察知し、動きを分解させて、できることから少しずつ教えていきたい。

お知らせ

- ・教育センターホームページで、市 ICT 活用委員の実践例を紹介しています。また、指導に役立つ資料等も随時アップしています。ぜひ、ご活用ください。